合田外科新聞

https://www.godageka.jp

令和２年１月号（第９１号）

電話：0797-71-2132／ファックス：0797-74-1430

最近の話題：７５歳以上が２割負担！？

医療費の自己負担の割合は年齢によって異なります。現在は７０歳未満の方は３割、７０歳から７４歳までの方は原則２割、７５歳以上の方は原則１割となっています。但し７０歳以上でも現役並みの所得がある場合には３割となります。高齢になればなるほど医療を受ける機会が増えますので、高齢者に対して負担軽減措置を行っている訳です。しかし急激な高齢化と現役世代人口の減少によって、このような軽減策を続けるのが難しくなってきました。２０２２年には推定８００万人といわれる「団塊の世代：１９４７年～１９４９年生まれ」が７５歳になりだし、総人口に対する７５歳以上の割合が２割近くになると見込まれています。厚生労働省によると、１人当たりの年間医療費は６５歳未満では平均１８万円ですが、７５歳以上では９１万円に達します。介護費も同様で、７５歳以上の人口が急増すると医療・介護などの社会保障費用も急増することになります。このような中で政府は誰もが安心できる社会保障制度に関わる検討を行うためと謳い、安倍総理大臣を議長とする「全世代型社会保障検討会議」を設置しました。この会議では医療に関して財務省から様々な負担増加案が提言されています。７５歳以上の自己負担増だけではなく、毎回の受診の度に上乗せして支払う外来受診時定額負担やビタミン剤や湿布などの市販類似薬の保険外しも俎上に上がっています。医師会はこのような負担増案には断固として反対してきましたが、残念ながら７５歳以上の２割負担は強硬に押し切られてしまいました。但し当初は殆どの方が２割負担の対象となっていましたが、交渉の末、２割負担になる方はある程度の収入がある方に限られるようです。詳細が判明するのは２０２０年になってからで２０２２年から施行される予定です。

インフルエンザに関して

厚生労働省の試算では今シーズンのインフルエンザワクチンは十分な数が供給される見込みでしたが、シーズン当初に予想以上の方が接種されたため年末にて在庫が無くなり、本来は１月末までの予定でしたが、期限前に終了致しました。ワクチン接種を希望されながら接種できなかった方には大変申し訳ございませんでした。次シーズンもできるだけ多くのワクチン確保に努めますが、できましたら１１月末までの接種をお願い致します。年末の時点では宝塚市内でインフルエンザの流行は散発的で、小中学校の学級・学年閉鎖もまだそれほどではなく、年明けから本格的に流行しだすと思われます。手洗いやうがいなどの基本的な防護策を講じると共に、適宜マスクを利用するなどして、うつらないように気を付けて下さい。

ヒートショックにご注意を

ヒートショックでは急な温度変化によって血圧が急変動し、体に異常を引き起こします。典型的には冬場の入浴で、暖かい居室から冷えた脱衣所・浴室に行くと体が熱を逃がさないために血管が収縮し血圧が上がり、熱いお湯につかると今度は血管が拡張して血圧が下がってしまいます。このように血圧が急に変動する時には脳出血・脳梗塞・心筋梗塞などの血管の大きな病気が起こりうるのです。ヒートショックを防ぐためには脱衣所に暖房器具を置いたり、浴室内を予め暖めるなどの工夫をして下さい。

【編集後記】

皆様、あけましておめでとうございます。今年もどうか宜しくお願い申し上げます。今年で５４歳、開業して２０年目になります。あっという間でしたが、日々、ご来院して下さる皆様に感謝しながら過ごしております。

院長　　合田　潔

合田外科新聞

https://www.godageka.jp

令和２年４月号（第９２号）

電話：0797-71-2132／ファックス：0797-74-1430

最近の話題：新型コロナウイルス感染症

昨年末に、中国の武漢の海鮮市場の関係者に原因不明の肺炎が起こっているとの報道がありました。最初はベタ記事で、私（＝院長）も何かの風土病かと思っていましたが、ご承知のようにあっという間に武漢から湖北省全体に広がり、中国政府が武漢封鎖という強硬な手段で押さえ込みを図りました。その間にこの病気が新型のコロナウイルスによる感染症であることが明らかとなりましたが、感染は中国から世界へと広がり、ＷＨＯ（世界保健機関）が感染症の世界的な大流行を表す「パンデミック」状態であると宣言しました。これまでも中世ヨーロッパのペストや２０世紀初頭のスペイン風邪などパンデミックな感染症は何度も起こっています。何れも人類に対して大きな災いをもたらし、大勢の方が亡くなりました。例え未知の病原体に遭遇しても人間の持つ免疫システムは対処可能ですが、防御効果が出るまでには一定の時間がかかり、残念ながら間に合わない方もいるのです。元々コロナウイルス自体は風邪の原因となるもので、病原性がさほど強くはありません。今回のコロナウイルスでも８割程度の方は罹っても無性状～軽症で、自分でも気付かないこともあると言われています。但し高齢の方や持病のある方などは重症化することがあり、注意が必要です。やっかいなのは大部分の方が罹っても大したことがないため、自覚せずにウイルスをまき散らし、感染を拡大させることです。事実、イタリアなどのヨーロッパ諸国ではこのような形での感染が広がり、結果的に重症化した高齢者が医療機関に殺到し、医療が崩壊してしまいました。全く無性状の方では対処が困難ですが、風邪のような症状のある方はコロナの可能性がありますので他人にうつさないように注意しましょう。また誰が感染しているのかわかりませんので、各自よく手を洗ってできるだけ予防に努めましょう。

コロナ予防・検査・治療に関して

現時点では新型コロナウイルスに対して予防のためのワクチンは存在しません。多くの製薬会社がワクチン開発を始めていますが、実用可能なものができるまでには年単位の時間が必要です。コロナに感染したかどうかはＰＣＲ検査を行えば判ると言われていますが、感度は７０％程で決して高くはありません。すなわち１０人中３人は見落としてしまいます。またこの検査はインフルエンザの検査と同様に鼻の奥などを綿棒で擦って検体をとりますが、この時に感染が生じる危険性が高く、簡単には行えません。血液を用いた検査も試験的に開発されていますが、感染してからある程度の時間が経過しないと判定できず、早期診断には向いていません。治療薬としては新型インフルエンザ用に開発された「アビガン」やエボラ出血熱用の「レムデシベル」が試されています。予防のために大事なことは、密閉した空間で極度に人と接触しないことで、換気の悪い場所は要注意です。また一番大事なのは手を洗うことで、石鹸を使って手首や指の間まで念入りに洗って下さい。マスクはしないよりはした方がいいですが、基本的には自分から他人に感染させないためのものですので、マスクをしているからといって安心して手洗いがおろそかになってはいけません。

健診・検診開始

４月より令和２年度の健診・検診が始まります。当院では宝塚市国民健康保険特定健康診査（メタボ健診）と高齢者の方の宝塚市後期高齢者健康診査を行います。対象の方には宝塚市より案内状が届きますのでお持ち下さい。また各種がん検診も行いますので合わせて受診下さい。

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染が深刻化しています。原稿執筆時点（３月２７日）ではイタリアの死亡者が７０００人を越えたようです。近隣でも伊丹の介護施設からのの感染が拡大しており予断を許しません。早く世界が平常に戻ってくれるのを切に願っています。

院長　　合田　潔

合田外科新聞

https://www.godageka.jp

令和２年７月号（第９３号）

電話：0797-71-2132／ファックス：0797-74-1430

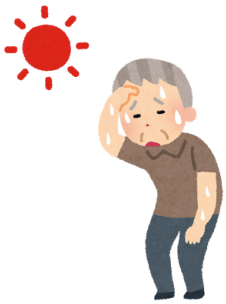
最近の話題：新型コロナ感染症(第２報)

当新聞の４月号以来、国内においても新型コロナウイルスの感染拡大が続き、ご承知の様に４月７日に、東京・埼玉・千葉・神奈川・大阪・兵庫・福岡の７都府県に緊急事態宣言が出されました。その後、北海道・茨城・石川・岐阜・愛知・京都の６道府県でも新型コロナウイルスの蔓延が見られ、全国的に感染拡大の傾向があるとのことで、政府は４月１６日に緊急事態宣言の対象を日本全土に広げました。緊急事態宣言では欧米で行われた都市封鎖（ロックダウン）の様な罰則を伴う強硬な手段はとられず、あくまで自粛を要請するという形でしたが、強いられなくても従う日本人の美徳でしょうか、社会全体が活動を最低限に保ち、何とか感染の第一波を食い止めました。欧米では新型コロナウイルスによる死亡者数が数千人～数万人にのぼるのに対し日本では死亡者数は数百人とはるかに少なく、国内外からは政府の対策に様々な非難が寄せられましたが、日本の対応は結果的には成功だったと言えるでしょう。このことに関しては欧米のマスコミも、何故これほど緩い対応でうまくいったのか、非常に不可解に思っている様です。結核の予防接種であるＢＣＧによって免疫が高められていた、以前から新型コロナウイルスに似たウイルスにさらされていてある程度の免疫が出来ていた、日本人が手洗いやマスクなど清潔好きであった・・・色々なことが言われていますがはっきりしたことは現時点では判りません。もちろん偶然にうまくいっただけという可能性もあり得ますが、何れにしましても欧米の様な悲惨な結果にならなかったのは幸いでした。こうして感染の第一波はしのげましたが、ウイルスとの戦いはこれで終わった訳ではありません。多くの専門家は冬に向かって第二波の感染が広がる可能性があると警告しています。むやみに社会生活を犠牲にすることはできませんが決して油断しない様にしていきましょう。

健診・検診再開

緊急事態宣言の解除に伴い、休止されていた宝塚市国民健康保険特定健康診査（メタボ健診）と高齢者の方の宝塚市後期高齢者健康診査が再開されました。お手元に市役所から受診券が届いている方が対象で、無料で受けることができ、大変に有用ですので是非お受け下さい。当院で予約無しで受診可能です。またがん検診も再開しており、肺がん検診・大腸がん検診・前立腺がん検診を実施していますので併せて受診下さい。クーポン券が届いた方では胃がんリスク検診や肝炎ウイルス検診も当院で実施可能です。

熱中症にご注意を！！



暑い季節がやってまいりました。６月中旬から急に気温が上がってきましたが、９月までは熱中症に気を付けましょう。熱中症は気温が高い時や激しい運動で体にたくさんの熱が生じる時に起こり易いのですが、時には家の中でじっとしていても起こることがあり、油断は大敵です。軽い場合には手足にこむら返り様の筋肉痛が起こる位ですみますが、ひどくなると目眩や頭痛・嘔吐が起こったり、極端な場合には意識を失って死に至ることもあります。今年は新型コロナウイルスの感染予防のためにマスクが奨励されていますので、よりいっそう熱が体にこもり易く、熱中症の危険性は非常に高いと思われます。熱中症を防ぐために、しっかりと水分を摂り、暑さを避ける様に工夫して下さい。特に高齢の方は喉の渇きや暑さをあまり感じないことがありますので、１時間に１００ｃｃ位ずつ喉が渇かなくても水分を摂って下さい。また換気に気を付けながらクーラーも積極的に使いましょう。

【編集後記】

国内では新型コロナウイルスの流行はようやく落ち着きだしましたが、世界ではまだまだ猛威をふるっています。このパンデミックによって世界経済も大恐慌以来の不況になるのではと危ぶまれています。大変な時ですが皆で一緒に頑張って乗り越えましょう。

院長　　合田　潔

合田外科新聞

https://www.godageka.jp

令和２年１０月号（第９４号）

電話：0797-71-2132／ファックス：0797-74-1430

最近の話題：新型コロナ感染症(第３報)

新型コロナウイルス感染症は依然として全世界で猛威を振るっています。中国から始まり、欧州から北米・南米へと拡大し、現在では新興国が感染の中心となっていますが、一旦は感染が収まるかと思われた欧州でも再び感染が拡大しているようです。９月末の時点で全世界の累積の感染者数は３０００万人を越え、死亡者数は１００万人に達しています。我が国でも緊急事態宣言解除後に第二波として感染の再度の増加が見られましたが、幸いにも重症者や死亡者はあまり増えませんでした。ウイルスに根本的に対処するためにはワクチンが必要です。現在世界各国で数十種類のワクチンが開発中であり、有望と思われるものもいくつかありますが、過大な期待は禁物です。というのもワクチンは健康な人に接種するものであるため、通常の医薬品以上に安全性が求められるからです。一例として１９７６年にアメリカでは、豚インフルエンザに対して全国民を対象にした集団予防接種を開始しましたが、数週間もたたないうちにワクチンの副作用としてギラン・バレー症候群という麻痺を伴う神経疾患が報告され、２ヶ月足らずで５００人が発症し、３０人以上が死亡したという出来事がありました。かように拙速なワクチン接種は危険であり、通常はワクチンの開発には数年間は必要となります。都市封鎖（ロックダウン）のような極端な方法は社会・経済に与える影響が大きすぎるため、何回も行うことはできませんが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、ある程度はウイルスの存在を許容して生活をしていかざるを得ないでしょう。さてこのような新型コロナウイルスですがこの冬はインフルエンザとの同時流行が懸念されています。発熱がある場合には区別ができませんので、万一の新型コロナウイルスの可能性を考え、クラスター防止のため一般の方とは別個に診察を受けなければなりません。直接に来院せず、まずは受診前にお電話をして下さい。

インフルエンザワクチンのお知らせ

新型コロナウイルスの感染が収まらない中、今年もインフルエンザワクチンの時期がやって来ました。今年は政府の要請により高齢者に優先的に接種をすることとなっており、１０月１日（木）から６５歳以上の高齢者の接種を開始致します。高齢者以外の一般の方には１０月１５日（木）から接種を行います。これから寒くなると発熱される方が増えてきますが、新型コロナウイルスとインフルエンザは症状だけでは見分けがつきません。普段でしたら鼻の奥を擦った検体を用いた迅速診断キットによってインフルエンザかどうかはすぐに判りますが、この方法はもし新型コロナウイルスの感染であった場合には医師・看護師に対しての感染リスクが大きく、今年はインフルエンザの検査は困難です。そのため発熱をされた方に対して十分な検査・治療が難しいのではと懸念されています。出来るだけ発熱することがないよう、予防できる病気はしっかり予防しましょう。６５歳以上、あるいは６０歳以上で特定の疾患のある宝塚市民の方は１５００円で接種可能です。また近隣市の方も市役所で証明書を発行してもらって来て頂ければ１５００円で接種が可能です。なお一般の方の任意接種の料金は下表の通りとなっています。当院では幼児は５歳以上から接種を行います。予約は不要です。

	接種回数	１回目料金	２回目料金
６５歳以上	１回	１５００円	
１３歳以上６５歳未満	１回	３５００円	
５歳以上１３歳未満	２回	３５００円	３０００円

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染がなかなか収まりません。幸い重症者・死亡者はそれほど多くはありませんが、これからの季節、インフルエンザとの同時流行が心配です。手洗いやマスクなど基本的な予防を徹底しましょう。

院長　　合田　潔

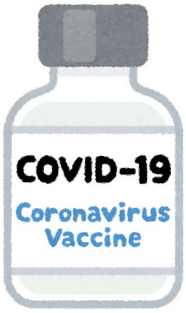
合田外科新聞

https://www.godageka.jp

令和３年１月号（第９５号）

電話：0797-71-2132／ファックス：0797-74-1430

最近の話題：新型コロナ感染症(第４報)



新型コロナウイルス感染症は２０２０年末になっても依然として全世界で収まる気配を見せません。いやむしろ感染が加速していると言っても過言ではないでしょう。我が国では何とか第二波を乗り切りましたが、１１月から感染者が急増し、現在は第三波の真っただ中にいると思われます。若年者が感染の中心であった第一波・第二波と比べ第三波では広い世代に感染が見られ、死亡者も増加しています。イギリスでは感染力が７０％も増加した変異型ウイルスの出現が報告され、日本への流入が懸念されています。このように厳しい状況ではありますが、一筋の光明が見えてまいりました。ワクチンがいよいよ実用化段階に入ったのです。従来はワクチンの開発には多くの年月が必要でした。現在までで最も開発期間が短かったのはおたふく風邪のワクチンですが、それでも４年かかりました。新型コロナウイルスが発見されてからまだ１年もたっていませんので今回のワクチン開発のスピードは驚異的です。これは従来とは比較にならない程の大量の資金が投じられ、更に従来は無かった新しい技術を用いたからで、人類の叡智の賜物です。アメリカのファイザー社・モデルナ社、またイギリスのアストラゼネカ社がワクチン開発で先行しており、２０２０年末の時点では前２者が欧米で承認され、接種が開始されました。アメリカのバイデン新大統領もテレビカメラの前でワクチン接種を受け、国民に接種を受けることを奨励しています。非常に短期間で開発されたワクチンではありますが、ウイルス防御効果は９０％以上とインフルエンザウイルスワクチン以上に有効で、また心配されていた副作用も概ね想定の範囲内に留まっています。日本でも承認がおり次第、２～３月からワクチン接種が始まる見込みですが、スムーズに行うためには周到な準備が必要です。宝塚市でも既に準備が始まっており、私（院長）も宝塚市医師会担当副会長として市と協力しながら市民の皆様のワクチン接種の準備を進めています。

宝塚市医師会検査センター

宝塚市医師会では新型コロナウイルスのＰＣＲ検査のために検査センターを設置しました。受診の方法ですが、まず宝塚市医師会会員の医療機関（市内の開業医の大部分が所属しています）を受診し、診察の結果で新型コロナウイルスに感染している可能性が高いと判断された場合に、その医療機関からの依頼で検査を行うということになります。検査は完全予約制で月・水・金の午後１時３０分から１０分間隔で予約を受け付けています。検査場には必ず車で来て頂き、唾液を採取します。この検査センターは兵庫県と契約して行っている公的なものですので、医療機関受診時の診察費用はいりますが、ＰＣＲ検査自体の費用はかかりません。また最近よく宣伝されている自費診療では陽性の結果が出た場合には再度公的な検査が必要ですが、医師会検査センターでは陽性であった場合には確定となり、以後は保健所が対応することになります。症状がある方が対象ですので濃厚接触者や無性状で感染が心配な方は対象外となります。いろいろと制約はありますがこのように市内で検査が行えるようになったのは大きな前進と思われます。

発熱や風邪症状のある方の受診

当院ではかかりつけの方の発熱や風邪症状はもちろん診察をしています。但しこのような症状がある場合には新型コロナウイルスの感染の可能性がありますので万一の場合のクラスターを防ぐため通常の診察とは時間・場所を分けて行っています。受診される場合には直接ご来院頂くのではなく、必ず事前に電話で確認をお願い致します。受診の時間や方法をお伝えします。

【編集後記】

２０２０年は新型コロナウイルス一色の一年間でした。全世界にこれ程大きな騒動が起こるとはいったい誰が予想できたでしょう？安心するにはまだ早いですがワクチンという光明も見えてまいりました。２０２１年はどうか明るい一年になって欲しいものです。

院長　　合田　潔